

1 学校評価（教職員自己評価）より

(1) 実施時期と方法

- 8月下旬（上半期）と12月下旬（下半期）の年間2回実施。
- 10領域、47項目をA・B・C・Dの4段階及び自由記述により評価。
- C・Dの評価については、改善案を提示する。
- 関連領域についてまず3部会で話し合い、その後、検討事項について職員会議において全教職員で話し合う。

(2) 自己評価（下半期）まとめ

	自己項目	評価 (%)				
		A	B	C	D	
教育課程	各教科等の授業（時数の確保、内容の指導）の充実を図れたか。	14	83	3	0	
	校時表・時間割・月行事・週行事に無理はなかったか。	17	76	7	0	
	週案を活用し、教科の時間のバランスをとりながら授業を計画的に行うことができたか。	28	72	0	0	
	学校の教育目標・学級目標・教科経営目標等にせまれる教育活動ができたか。（授業のユニバーサルデザイン化）	24	72	4	0	
研修	研修計画は適切であったか。	7	93	0	0	
	本校の研究主題や自己の研究テーマにそって研修が積み上げられたか。	14	86	0	0	
	教材研究は十分に行えたか。	21	68	11	0	
	研究授業・協議を通して、自分の力量を高めることができたか。	35	65	0	0	
	専科・TT等の連携はよかったか。	29	71	0	0	
生徒指導	児童が社会生活において必要となる資質や能力を高めることができるよう、指導することができたか。	17	80	3	0	
	なかよし7カ条を身に付けるように指導し、規範意識を高めることができたか。	立腰	10	73	17	0
		黙って掃除	17	66	17	0
		静かに移動	14	52	34	0
		チャイムで行動	24	66	10	0
		元気にあいさつ	28	55	17	0
		「はいっ」の返事	7	69	24	0
		履物の整頓	38	55	7	0
	いじめ・不登校問題・その他の問題行動に対し、未然防止に努めることができたか。	13	80	7	0	
	いじめ、不登校問題、その他の問題行動の事案が起こったとき、迅速に対応できたか。	23	70	7	0	
配慮を要する児童に対して、有効な手立てをとることができたか。	13	84	3	0		
報告・連絡・相談を適切に行うことができたか。	40	60	0	0		

	自己項目	評価 (%)				
		A	B	C	D	
人権・同和教育	人権意識を高めるための研修に努めたか。	40	57	3	0	
	各教科等それぞれの特質に応じ、計画的・系統的な学習を推進できたか。	24	76	0	0	
	自他の大切さを認めながら、支え合い、助け合う仲間づくりに努めたか。	31	69	0	0	
	なかよしの時間を計画的に進めることができたか。	29	71	0	0	
	なかまファイルを有効に活用できたか。	6	81	13	0	
	人権・同和教育ワンポイント研修のもち方は適切であったか。	25	72	3	0	
特別活動	学級活動において、話し合い活動や係活動を活発に行うことができたか。	18	65	17	0	
	行事等への参加で、特活のねらいが達成されたか。	29	71	0	0	
	特別活動は、児童主体で活動を進めていくものだという事を児童に意識付けたか。	18	71	11	0	
道徳教育	年間計画通りに実施できたか。	31	69	0	0	
	授業のユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業づくりに努めたか。	24	86	0	0	
	「考え、議論する道徳」への転換を目指し、授業改善に努めているか。	13	87	0	0	
	特別の教科・道徳についての自己研修に努めたか。	21	76	3	0	
	道徳的環境の整備に努めているか。(教室・校舎内掲示等)	21	89	0	0	
	道徳科の授業での取組の様子を学年・学級だより、道徳ファイルを通して、保護者に積極的に発信できたか。	13	75	12	0	
	道徳科の評価に向けて、一人一人の見取りを行うことができたか。	6	94	0	0	
特別支援教育	特別支援学級の児童との交流が主体的に図られているか。	担任(教師自身)	39	58	3	0
		クラスの児童	19	70	11	0
	学級内にいる支援が必要な子の学習や行動のつまずきに気づき、適切な支援をすることができたか。	7	89	4	0	
	特別支援教育コーディネーターとの連携が図られたか。	14	82	4	0	
	学年間で、支援が必要な児童の情報が共有できたか。	31	66	3	0	
情報教育	個人情報・成績等を机上に置きっぱなしにしていないか。	47	47	6	0	
	校務系のデータが外に出ないように守られているか。	73	27	0	0	
	児童の一人一台端末が安全に保管されているか。	38	62	0	0	
	一人一台端末を活用し、双方向的、協働的な学習を日常的に行うことができたか。	21	69	10	0	
	プログラミング教育を、年間指導計画に基づいて計画的に行っているか。	14	73	10	3	
	発達段階に応じた情報モラル教育を、「カリキュラムチェックリスト」に基づいて学級で指導しているか。	7	86	7	0	
保健	健康観察を十分に行い、朝の会終了後、提出できたか。	66	34	0	0	
	学校管理下における傷病について、家庭への連絡を適切に行ったか。	50	50	0	0	
	けが防止のために呼び掛けができたか。	52	48	0	0	
	環境衛生面に気を配って、教育活動を行えたか。 (手洗い、うがい、ハンカチ、ティッシュ、姿勢、照明等)	28	72	0	0	
食育	衛生点検、適切な配膳、マナーなど、日常的な給食指導が継続的に実施できたか。	32	68	0	0	
	学級担任と栄養教諭が連携し食育指導(給食・授業・個別指導)を計画的に実施できたか。	29	71	0	0	

(3) 成果 (○) と課題及び改善策等 (◆)

教育課程	<p>○ 通知表 2 期制を実施したが、長期休業中に所見作成や成績処理ができるため業務の平準化に繋がり、大きく業務改善を図ることができた。おかげで学期末まで児童としっかり向き合うことができ、落ち着いて授業ができた。</p> <p>◆ 感染症対策のため学級懇談がほとんど実施できなかった。授業参観も入替制で実施しているが、コロナ禍以前の実施方法に戻していきたい。</p>
研修	<p>○ 学年団で事前授業を行うなど提案授業について研究を深めることができ、個々の力量を高めることができた。</p> <p>○ 計画的に I C T 研修が行われて、大変効果があった。また、授業実践の中で自主的な研修や相互研修が自然な形で進められているのも良い。</p> <p>◆ 研修したもので全体共有した方が良いものは、終礼等で積極的に情報発信していく。</p>
生徒指導	<p>○ 「チャイムで行動」「履物の整頓」が全校的によくできている。</p> <p>○ いじめの対応については、迅速に報告・連絡・相談などがしっかりできているが、不登校対応・未然防止については、強化していく必要がある。</p> <p>◆ Chromebook を不登校等の対応に活用していく。「なかよし 7 か条」については、項目を絞り徹底していく必要がある。</p>
人権 同和 教育	<p>○ 教育活動全体を通して、計画的・系統的な学習が展開され、「なかよしの時間」も計画的に進めることができ、仲間づくりがしっかりとできていた。</p> <p>○ ワンポイント研修のテーマを年度当初に決めていたのが大変有効であった。</p> <p>◆ 道徳ファイルが児童の心の成長に役立つように、活用方法を工夫していく。</p>
特別活動	<p>○ 集会や朝会など、場面に応じて効果的にミートと参集とを使い分けて実施できるようになってきた。6 年生が中心となり、あいさつ運動やボランティア活動に取り組めた。</p> <p>◆ 学級活動の時間にクラスの問題について話し合うなど、児童の自治的な活動が充実するように、場の設定などを工夫していきたい。</p>
道徳教育	<p>○ 効果的な指導ができるよう学年で教材研究をして授業に臨め、授業のユニバーサルデザインが進んだ。「考え、議論する道徳」について、Chromebook などを活用して意見を共有し様々な場面で考えを深め合う活動が充実してきた。</p> <p>◆ 道徳ファイルの活用、学年だより等の情報発信などを工夫していきたい。</p>
特別 支援 教育	<p>○ 終礼での情報交換や校内支援委員会の実施により、次年度への就学指導や引継ぎがスムーズに行えるようになってきた。関係機関との連携も効果的に実施されている。</p> <p>◆ 通常学級内に在籍している支援が必要な児童に対する効果的で継続できる支援方法等について、研修を深めていく必要がある。</p> <p>◆ 特別支援学級児童との交流が主体的に図られるように、計画的な指導を実施していく。</p>
情報教育	<p>○ 1 人 1 台端末を活用して、双方向的で協働的な学習が日常的に展開されるようになってきており、授業改善が進んでいる。</p> <p>◆ デジタル・シティズンシップ教育への転換を図っていく必要がある。</p> <p>◆ ロイノートなどを活用して工夫を凝らした作品や自主学习を紹介するなど、G I G A 係等の取組を創意工夫していく。</p>
学校保健	<p>○ 新型コロナウイルス感染症対策が適切に行われており、校内での感染拡大を防ぐことができている。</p> <p>◆ 今後も感染症対策について教職員全体で意識統一を行い、組織的に対策を進めていく。</p> <p>◆ 家庭でメディアコントロールがしっかりできるように啓発していく必要がある。</p>
食育	<p>○ 栄養教諭と学級担任がしっかり連携しながら、日常的・計画的に給食指導が実施できており、学習した内容が保護者に食育便りなどにより効果的に伝えられている。</p> <p>◆ 昨年度より残食率が増えてきている。「つぎきり配膳」や児童からの働き掛けを促していきたい。</p>

